

# 白河市歴史的風致維持向上計画の進行管理・評価シート

## □進捗評価シート(様式1)

- ①組織体制(様式1-1)
- ②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)
- ③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)
- ④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)
- ⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)
- ⑥その他(様式1-6)

## □法定協議会等におけるコメントシート(様式4)

福島県白河市

評価軸①  
組織体制

項目	評価対象年度	平成23年度
----	--------	--------

現在の状況	<input type="checkbox"/> 実施済み(計画の全て) <input checked="" type="checkbox"/> 実施済み(計画の一部) <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 今後、検討予定
-------	---

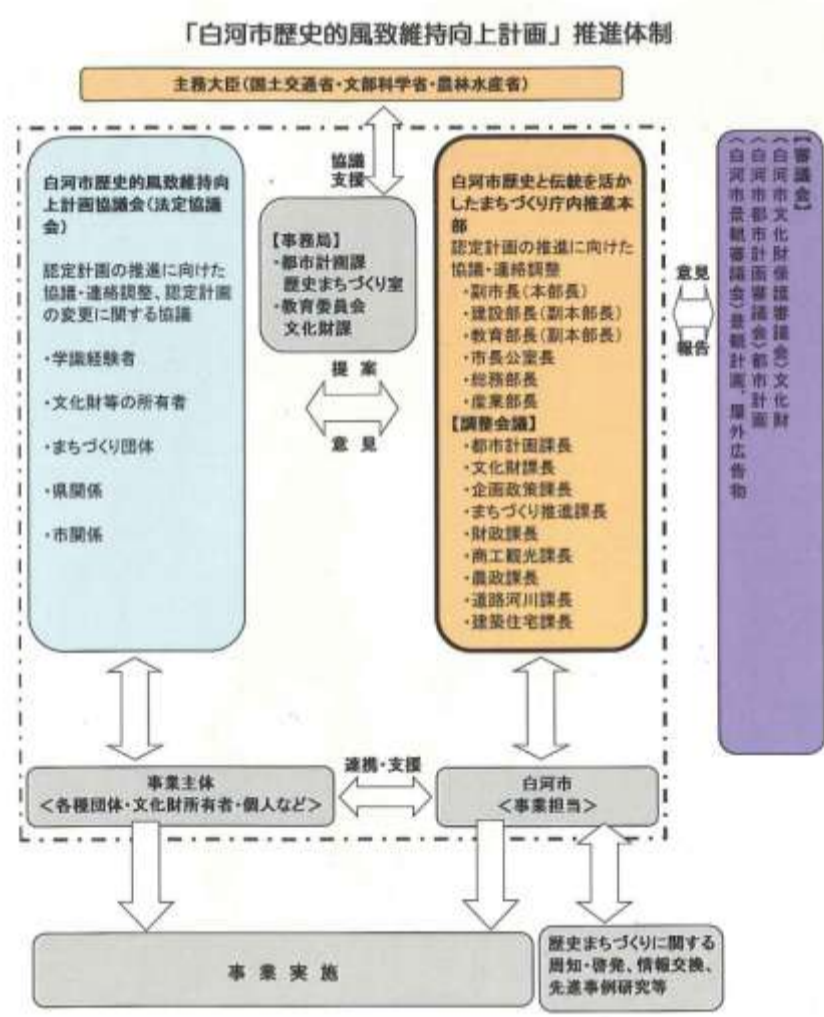
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

都市計画課歴史まちづくり室と教育委員会文化財課が事務局となる関係各部局で構成する「白河市歴史と伝統を活かしたまちづくり庁内推進本部」並びに「調整会議」を開催した。  
また、法定協議会を開催し、今年度の事業内容等について協議を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題(自由記述)
----------------	---------------------

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



- 歴史と伝統を活かしたまちづくり庁内推進本部・調整会議の開催
- 第1回(平成23年7月20日開催)協議概要
  - ① 計画の国認定
  - ② 小峰城跡及び歴史的建造物の被災状況
  - ③ 平成23年度事業
- 第2回(平成24年2月6日開催)協議概要
  - ① 計画及び事業の進捗状況
  - ② 歴史的風致形成建造物の指定状況
  - ③ 平成24年度事業
  - ④ 計画の変更
  - ⑤ その他

- 歴史的風致維持向上計画協議会の開催
- 第1回(平成23年7月26日開催)協議概要
  - ① 計画の国認定
  - ② 小峰城跡及び歴史的建造物の被災状況
  - ③ 平成23年度事業
- 第2回(平成24年2月9日開催)協議概要
  - ① 計画及び事業の進捗状況
  - ② 歴史的風致形成建造物の指定状況
  - ③ 平成24年度事業
  - ④ 計画の変更
  - ⑤ その他



評価軸②

重点区域における良好な景観を形成する施策

	評価対象年度	平成23年度
項目	現在の状況	
①都市計画の活用 ②景観計画の活用 ③屋外広告物について	<input type="checkbox"/> 実施済み(計画の全て) <input checked="" type="checkbox"/> 実施済み(計画の一部) <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 今後、検討予定	

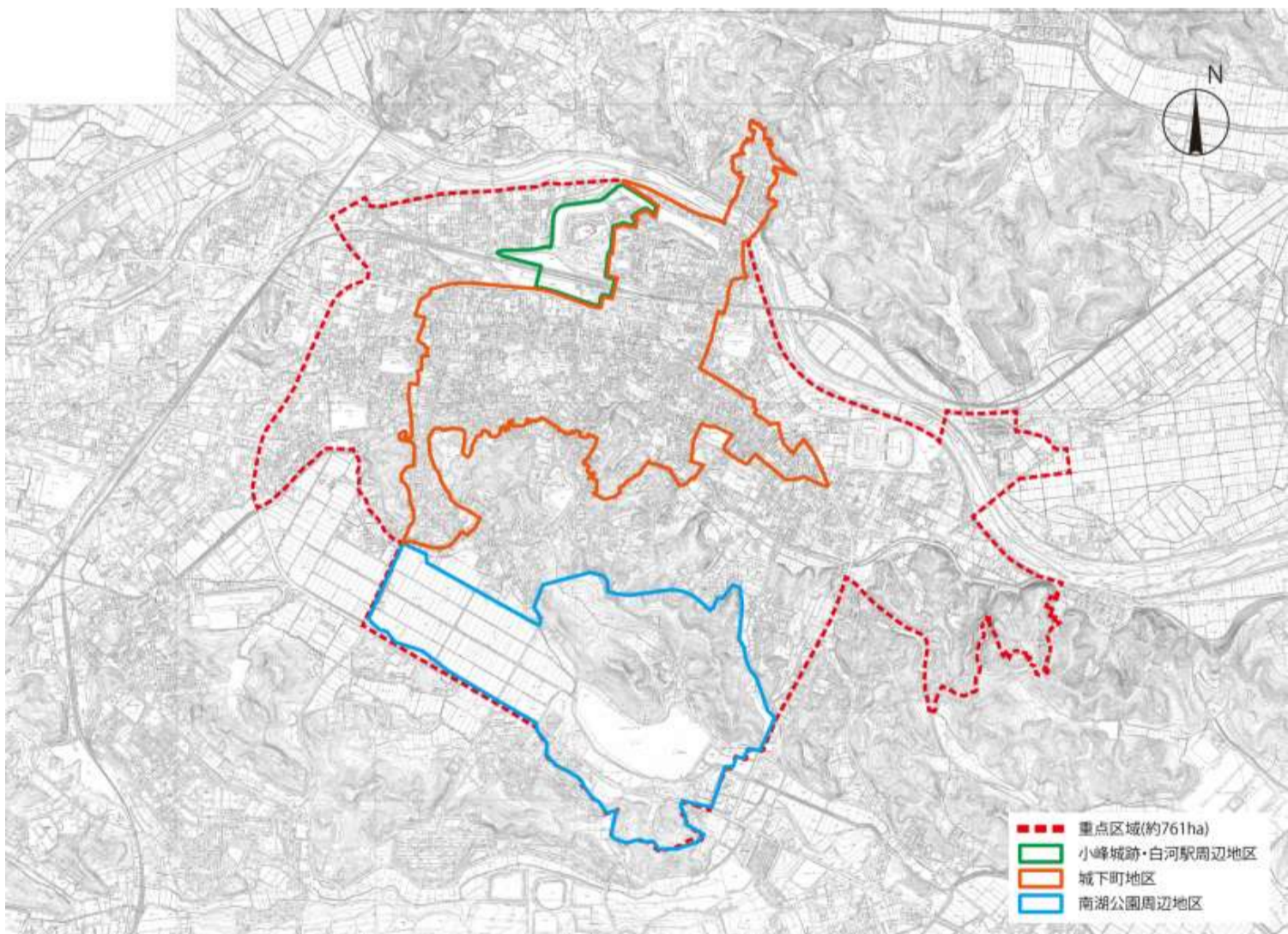
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

①都市計画道路白河中央線、昭和町桜町線等の見直しのための住民懇談会及び説明会において、良好な景観の形成と歴史を活かしたまちづくりを進めるための啓発を行った。  
 ②景観計画の活用については、平成23年3月に「白河市景観計画」を策定・告示(4月1日施行)し、景観法に基づく新景観条例を平成23年4月1日に施行した。景観計画では、小峰城跡・白河駅周辺地区、南湖公園周辺地区を景観計画重点区域に指定し、また、城下町地区を景観計画推進区域とし、新たな景観形成基準をそれぞれに定めた。歴史的風致形成建造物が集中する景観計画推進区域については、景観計画に基づく景観形成ガイドラインを設け、歴史的風致の維持向上に関しての実効性を担保している。  
 ③屋外広告物については、市独自の屋外広告物条例制定に向けて検討作業を行った。

図面の添付の有無  
 ※都市計画関連の変更がある場合のみ

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後、歴史まちづくり計画に基づく重点区域と、景観計画に基づく重点区域、推進区域との整合性を図るための検討が必要である。

状況を示す写真や資料等



重点区域内における景観計画の重点区域と推進区域



小峰城跡・白河駅周辺重点区域



南湖公園周辺重点区域



城下町地区推進区域

評価軸③

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成23年度
項目	現在の状況	

小峰城跡本丸・二の丸石垣修復事業(小峰城跡災害復旧事業)

- 実施済み(計画の全て)
- 実施済み(計画の一部)
- 検討中
- 今後、検討予定

定性的評価(自由記述)

当初予定では、平成24年度からの事業化を予定していたが、東日本大震災により本丸跡等の石垣が10箇所(崩落面積1,327㎡)にわたり崩落したため、平成23年度から概ね5~7年計画により修復に向けた事業を行うこととなった。このため、平成23年度においては、保存管理計画策定委員会を組織し、委員会内部に石垣検討部会を設置し、石垣修復の検討を行うとともに、被災状況の記録化も実施した。また、崩落した石垣の一部について撤去し仮置き場に運搬する工事に着手した。

定量的評価

進捗状況 ※計画年次との対応

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

実施・検討にあたっての課題(自由記述)

石垣の修復にあたっては、伝統工法による技術研究(石垣の積み方等)も課題となる。

状況を示す写真や資料等



小峰城跡本丸全景



震災により崩落した石垣(本丸南面)



本丸北側の石垣崩落状況



帯曲輪北側の石垣崩落状況



小峰城跡石垣崩落箇所

評価軸③

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成23年度
--	--------	--------

項目	現在の状況
小峰城道場門遺構整備事業	<input type="checkbox"/> 実施済み(計画の全て) <input checked="" type="checkbox"/> 実施済み(計画の一部) <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 今後、検討予定

定性的評価(自由記述)

道場門遺構は、道場小路武家屋敷から小峰城内に通じる枡形門遺構で、市街地に残された唯一の門遺構である。このことから、道場門の果たした歴史的役割や枡形門の形式を発掘調査や文献資料に基づき露出展示の手法により整備を図るため、平成23年度は測量設計を実施した。なお、道場門の石垣高は当時約4メートルであったが、現状は石垣の基礎部分のみの高さであることから、植栽等の工夫による設計を取り入れることとした。

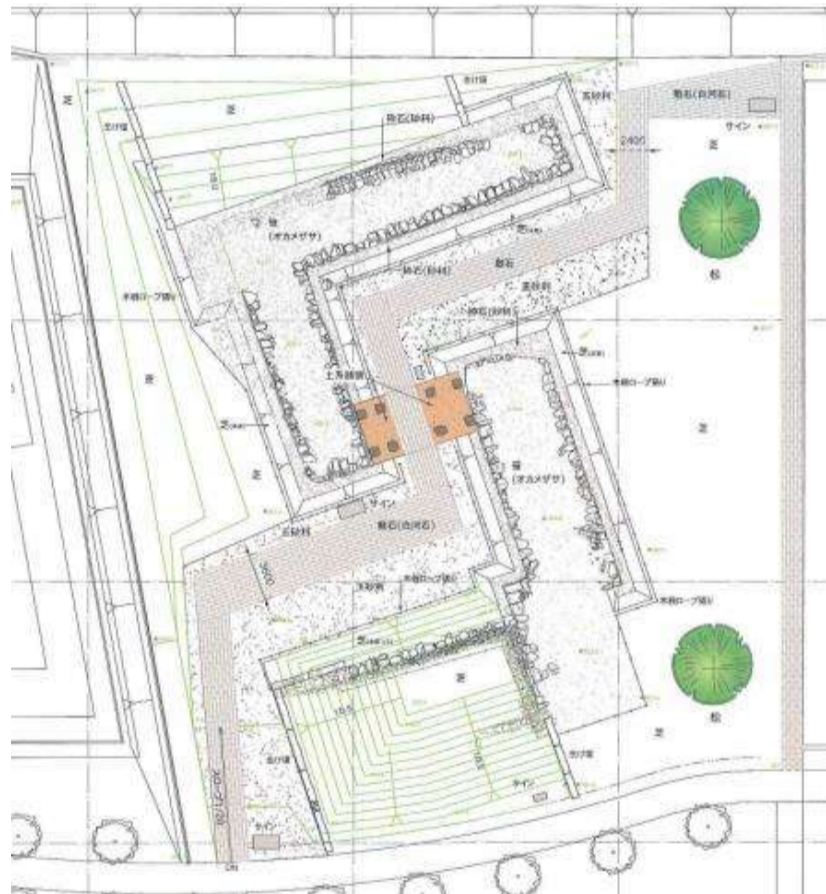
定量的評価

平成23年度: 測量設計面積 2,700㎡

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

道場門遺構整備設計図



道場門遺構発掘状況航空写真



小峰城絵図にみる道場門

評価軸③

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成23年度
項目	現在の状況	
歴史的まちなみ修景事業	<input type="checkbox"/> 実施済み(計画の全て) <input checked="" type="checkbox"/> 実施済み(計画の一部) <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 今後、検討予定	

定性的評価(自由記述)

城下町の歴史的風致を保全するため、景観計画に基づき景観形成ガイドラインを策定し、これに基づく修景等について支援を行う事業である。平成23年度においては、景観計画の城下町ゾーンの推奨基準に基づき景観形成ガイドラインを策定した。

定量的評価

進捗状況 ※計画年次との対応

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

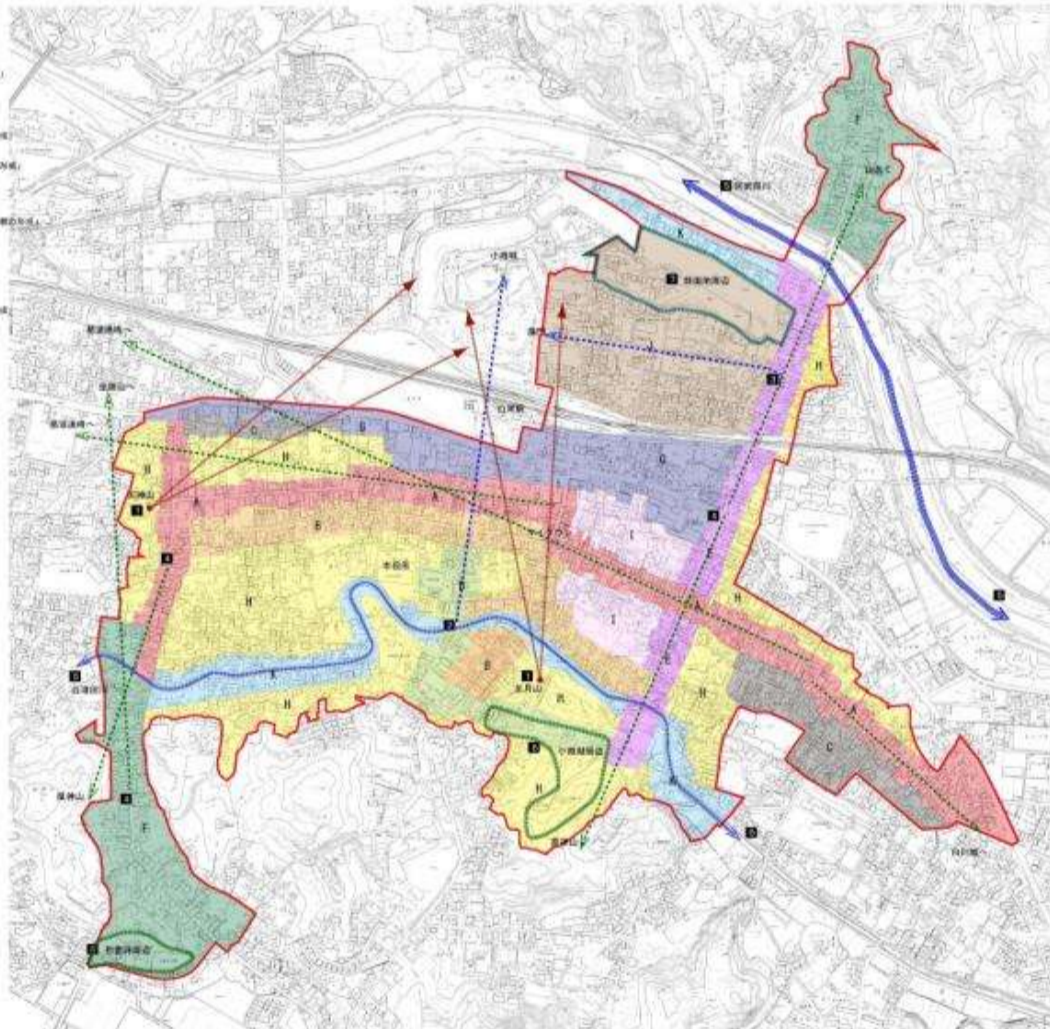
実施・検討にあたっての課題(自由記述)

街中がシャッター通りなどの衰退状況にあるため、景観形成ガイドラインに基づく修景事業についての推進が課題となる。

状況を示す写真や資料等

3 景観形成ガイドラインゾーニング図

- Aゾーン** 「歴史的建築物と近代以降の建造物が混在する伝統的景観の形成」
  - Bゾーン** 「歴史的建築物と新しい建築物が共存し、新旧共存した景観の形成」
  - Cゾーン** 「景観の形成と新しい景観の形成し、新旧共存する景観の形成」
  - Dゾーン** 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」
  - Eゾーン** 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」
  - Fゾーン** 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」
  - Gゾーン** 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」
  - Hゾーン** 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」
  - Iゾーン** 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」
  - Jゾーン** 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」
  - Kゾーン** 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」
  - Lゾーン** 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」
- 眺望景観  
 1 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 2 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 3 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 4 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 5 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」
- 景観軸  
 1 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 2 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 3 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 4 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 5 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」
- 景観視点  
 1 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 2 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 3 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 4 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」  
 5 「景観の形成と近代以降の建造物が共存する景観の形成」



整備前



整備イメージ



整備前



整備イメージ



評価軸③

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成23年度
--	--------	--------

項目	現在の状況
歴史的風致形成建造物保存修景事業	<input type="checkbox"/> 実施済み(計画の全て) <input checked="" type="checkbox"/> 実施済み(計画の一部) <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 今後、検討予定

定性的評価(自由記述)

東日本大震災により、旧奥州街道等に面する歴史的建造物の多くが土壁・屋根瓦が崩落するなどの甚大な被害を受けた。このため、平成24年度より予定していた本事業を平成23年度より前倒しで実施することとし、歴史的風致形成建造物に指定した建造物について、その保全と活用を図るため、建造物の修理・修景・整備について所有者が実施する工事に対する経費の一部を助成することとした。平成23年度については、33件88棟の建造物を指定し、そのうち11件14棟に対する助成を実施した。なお、当事業は、平成23年7月6日付けで歴史的風致維持向上支援法人に指定した「NPO法人しらかわ建築サポートセンター」との連携により実施している。

定量的評価

平成23年度:歴史的風致形成建造物指定 33件88棟  
このうち、11件14棟に対する助成を実施

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

土壁や屋根瓦の修理については、職人不足等により伝統工法による修理が難しい現況となっている。

状況を示す写真や資料等

修復前写真(震災による被害状況)

修復後写真



評価軸③

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度 平成23年度

項目	現在の状況
丹羽長重廟周辺整備事業(1/2)	<input type="checkbox"/> 実施済み(計画の全て) <input checked="" type="checkbox"/> 実施済み(計画の一部) <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 今後、検討予定

定性的評価(自由記述)

東日本大震災により、丹羽長重廟周辺の宝篋印塔、五輪塔、燈籠などほとんどが倒壊するなど甚大な被害があり、都市災害復旧事業により復旧工事を実施した。また、平成23年11月22日に丹羽長重廟並びに周辺一体を含むエリア(小南湖・白河藩大名家墓所)を歴史的風致形成建造物に指定し、丹羽長重廟に至る遊歩道の一部を石畳舗装とする整備を実施した。

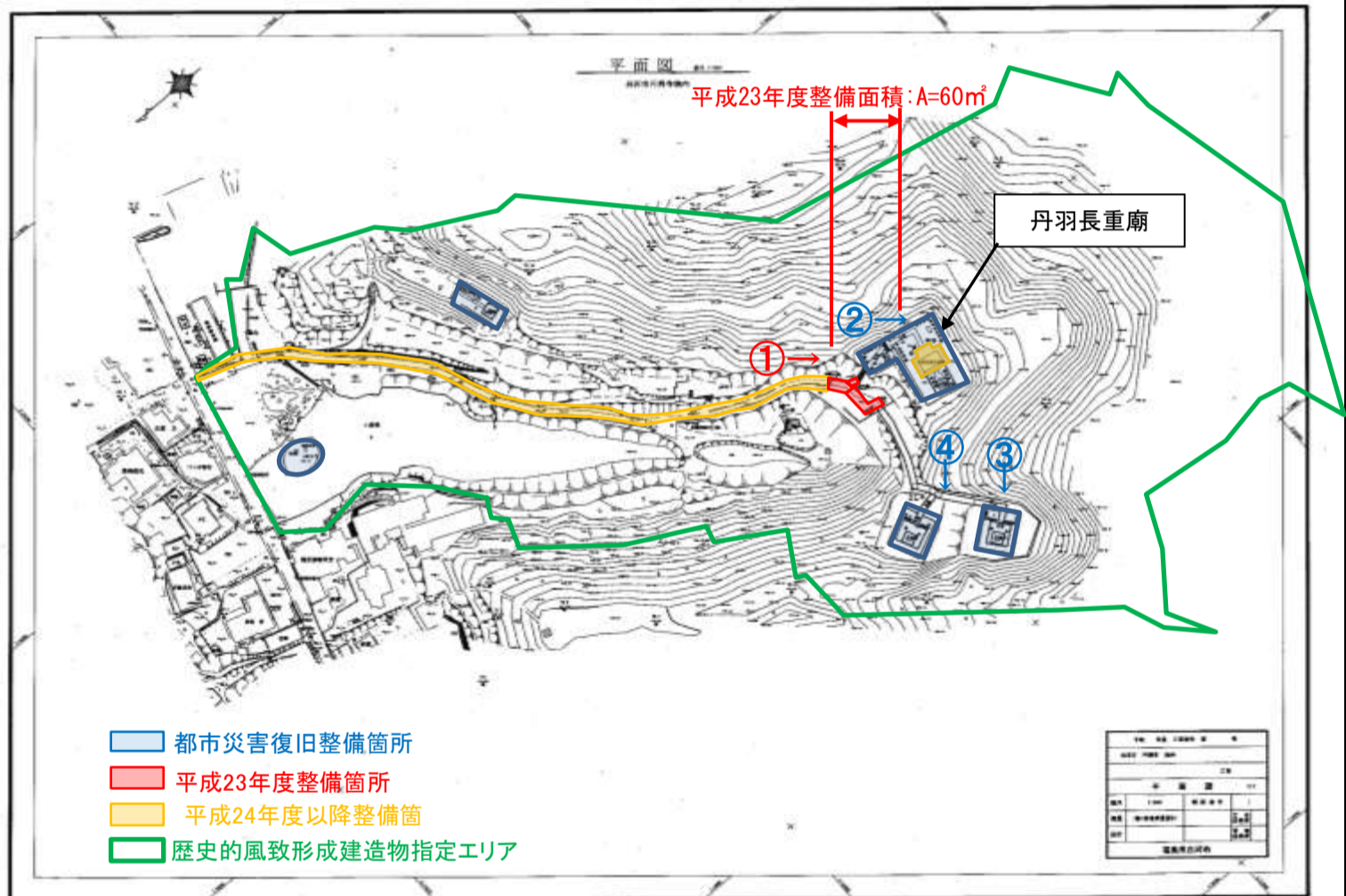
定量的評価

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



■遊歩道整備

①から丹羽長重廟方面を望む



施工前



施工後



評価軸③  
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度 平成23年度
丹羽長重廟周辺整備事業(2/2)	現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済み(計画の全て) <input checked="" type="checkbox"/> 実施済み(計画の一部) <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 今後、検討予定

状況を示す写真や資料等

■都市災害復旧工事

②から丹羽長重廟側を望む



東日本大震災後(平成23年3月14日撮影)



復旧後(平成23年12月9日撮影)

③から松平直矩墓を望む



東日本大震災後(平成23年3月14日撮影)



復旧後(平成23年12月9日撮影)

④から松平基知墓を望む



東日本大震災後(平成23年3月14日撮影)



復旧後(平成23年12月9日撮影)

評価軸③

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成23年度
--	--------	--------

項目	現在の状況
都市計画道路一番町大工町線(教会坂通り)整備事業	<input type="checkbox"/> 実施済み(計画の全て) <input checked="" type="checkbox"/> 実施済み(計画の一部) <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 今後、検討予定

定性的評価(自由記述)

都市計画道路一番町大工町線(教会坂通り)は、400年前に都市計画された旧奥州街道と平行して城下町を東西に通る歴史的な街路である。この事業は、既に完了している歩行系街路とともに歩行系ネットワークの形成を図るため歴史的街なみを活かして進められている歩車共存道路の整備であり、平成23年度は愛宕町の一部の整備を実施した。また、沿線3町内により組織された「金屋町・愛宕町・大工町通り景観まちづくり協議会」が平成24年1月19日に発足し、景観協定を目指す取り組みが行われている。

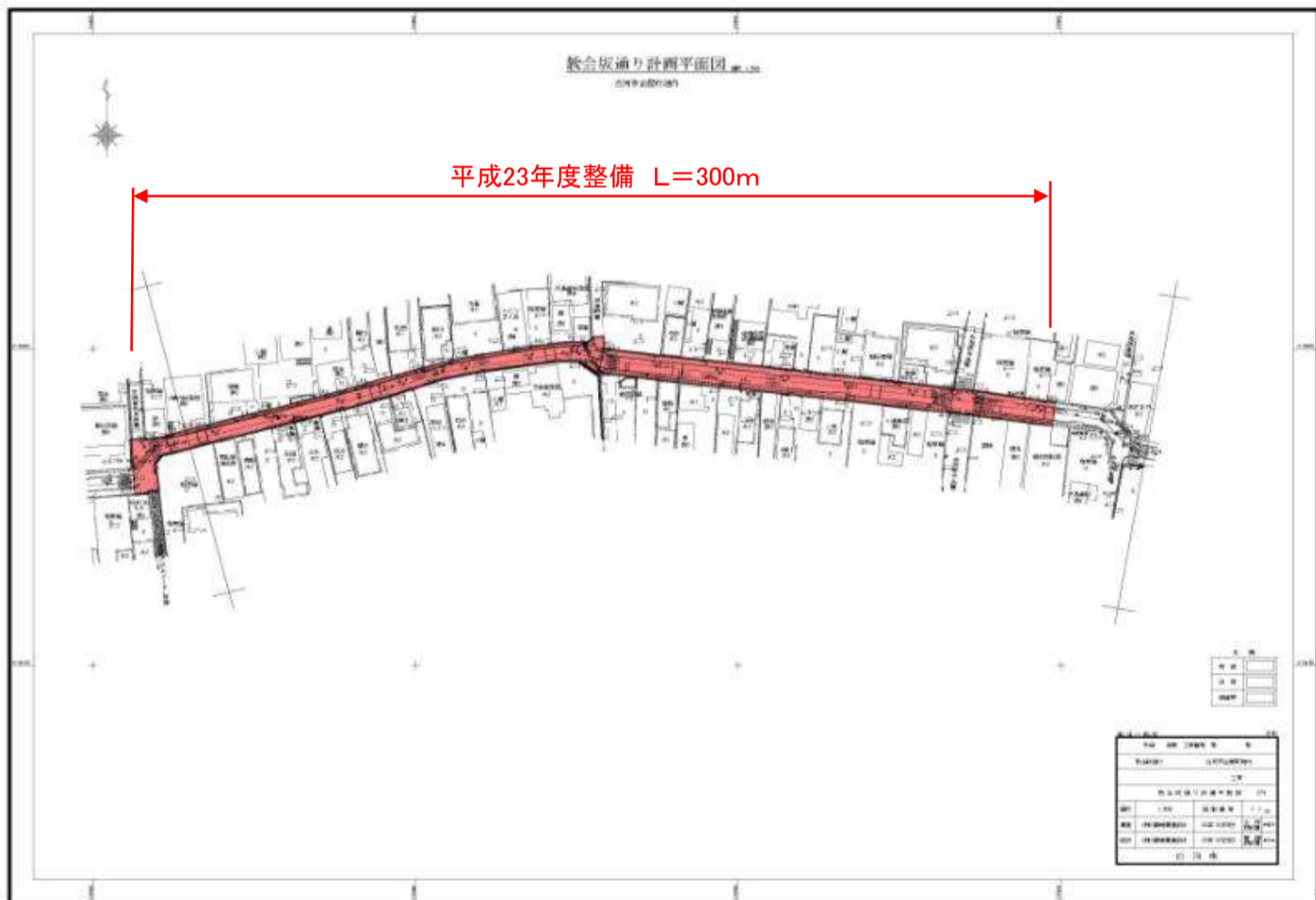
定量的評価

平成23年度:愛宕町エリアを整備	全体整備 :L=823m 平成23年度整備:L=300m 実施・検討にあたっての課題(自由記述)
------------------	--

進捗状況 ※計画年次との対応

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



整備前



整備後(石畳による舗装)

評価軸③

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成23年度
項目	現在の状況	

休養施設(友月山)整備事業

- 実施済み(計画の全て)
- 実施済み(計画の一部)
- 検討中
- 今後、検討予定

定性的評価(自由記述)

友月山公園は、小南湖とともに市街地に最も近く、友月山山頂からは、小峰城跡、市街地が一望できるなど眺望景観が優れ、市民に親しまれている公園である。しかし、休養施設が整備されていないことから、平成23年度にベンチ、トイレを含む休養施設の整備を実施した。

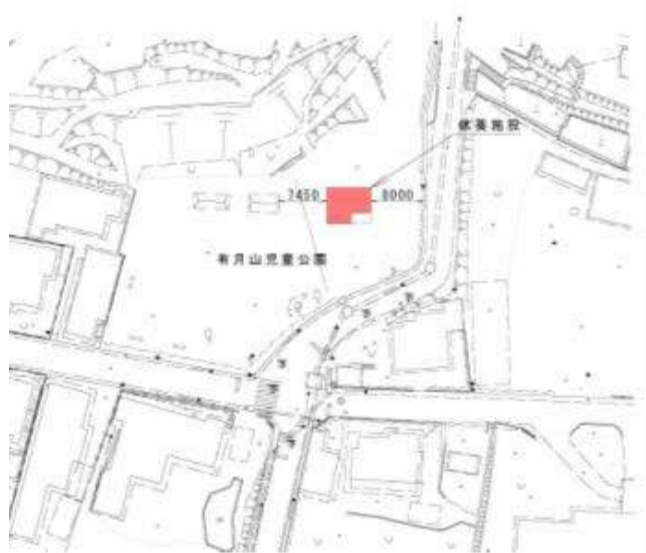
定量的評価

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



位置図



休養施設全景



休憩ベンチ



多機能トイレ

評価軸③

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成23年度
項目	現在の状況	

無形民俗文化財活動記録作成事業

- 実施済み(計画の全て)
- 実施済み(計画の一部)
- 検討中
- 今後、検討予定

定性的評価(自由記述)

地域に根差した民俗・芸能活動は、地域生活の一部を形作っていたものであることから、活動内容の詳細な調査を行い、活動記録を映像で保存し、活動が行われる環境の創出に努める。平成23年度においては、東日本大震災の影響もあり映像での記録化に至らなかったが、写真で記録するとともに、活動内容の確認を行った。

定量的評価

平成23年度:10団体の活動を写真で記録

平成23年度:確認される活動団体数30団体

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



表郷地域金山竹ノ内盆踊り



東地域釜子の盆踊り



大信地域十日市のちょうちんまつり

評価軸③

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成23年度
項目	現在の状況	

しらかわ無形民俗芸能等支援事業

- 実施済み(計画の全て)
- 実施済み(計画の一部)
- 検討中
- 今後、検討予定

定性的評価(自由記述)

無形民俗芸能等の活動は、後継者不足が加速し、活動停止に追い込まれる事例が増加しているため、保存団体を対象に民俗芸能等に用いる用具等の購入やその活動に対して財政的な支援を行っている。平成23年度においては、申請に基づき10団体に対して支援を行った。

定量的評価

平成23年度:10団体へ支援(合計40万円)

平成23年度:確認される保存団体数30団体

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



奥州白河歌念仏踊(安珍歌念仏踊)



奥州白河歌念仏踊(大和田の念仏踊)



関辺のさんじもさ踊

評価軸③

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成23年度
項目		現在の状況	
ぐるり白河文化遺産めぐり事業		<input type="checkbox"/> 実施済み(計画の全て) <input checked="" type="checkbox"/> 実施済み(計画の一部) <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 今後、検討予定	
定性的評価(自由記述)			
城下町ゾーンの寺社を中心に巡り歩き、あわせて歴史的・文化的資源をチェックポイントとするコースを設定し、オリジナル図柄のスタンプを収集するスタンプラリーを毎年開催している。平成23年度は「八天宮と小峰城」のテーマで、石造文化財である八天宮と寺院、教会をめぐるルートを設定して開催した。			
定量的評価			
平成23年度:10月29日～11月6日開催		参加者:300名	
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		寺院をめぐる際の「御朱印」記帳については、各寺院の足並みが揃っていないことから、今後の課題となっている。	

状況を示す写真や資料等

白河市中心市街地活性化事業  
 回覧  
**ぐるり白河文化遺産ツアー**  
**「八天宮と小峰城」**  
 2011年  
**10月29日(土)**  
 午前コース/徒歩所要時間2時間30分  
 午後コース/徒歩所要時間1時間30分  
 スタンプラリー開催  
 期間 10月29日(土)～11月6日(日)  
 午前10:00～午後3:00



ぐるり白河文化遺産ツアー参加者アンケート調査結果の概要

- 参加した感想
  - ・良かった 90%
  - ・分からない 10%
- 自由意見
  - ・「足元は宝の山」白河はそういう土地である。
  - ・来年も参加したい。
  - ・知らない場所もあって勉強になった。

評価軸④

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成23年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の修理(整備を含む)</li> <li>文化財の保存活用のための施設等</li> <li>文化財の防災</li> <li>文化財の保存及び活用の普及・啓発</li> </ul>	現在の状況	
	<input type="checkbox"/> 実施済み(計画の全て) <input checked="" type="checkbox"/> 実施済み(計画の一部) <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 今後、検討予定	

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・文化財の修理(整備を含む)について  
 小峰城跡石垣の修復に着手した(3頁参照)。  
 指定文化財美術工芸品の修復を3件(市指定中臣祓2件、県指定イコン画1件)実施した。  
 無形民俗文化財については、活動内容の確認を行い、活動に対する支援を実施した(12頁参照)。  
 東日本大震災により被害を受けた重要文化財(建造物)の修復を4件(県指定2件「松風亭蘿月庵」「白河ハリストス正教会聖堂」、市指定2件「共楽亭」「旧小峰城太鼓櫓」)実施した。このうち、松風亭蘿月庵については、平成24年9月完成予定。

・文化財の保存活用のための施設等  
 計画に基づき、指定文化財の説明看板を10基設置。

・文化財の防災  
 文化財防火デーに合わせ、市指定文化財「白河藩大名墓所」(小南湖)において防火訓練を実施した。

・文化財の保存及び活用の普及・啓発  
 震災により崩落した小峰城跡石垣の現地見学会を開催した。また、小峰城跡の復興と歴史まちづくり講演会を開催した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



指定文化財の修復(イコン)



指定文化財の説明看板



小峰城跡石垣見学会  
(平成23年10月2日・参加者320名)



文化財防火デー(平成24年1月22日)



歴史まちづくり講演会  
(平成23年12月4日・参加者200名)

評価軸⑤

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	日時	掲載紙等
・「歴史的風致形成建造物」紙屋醸造建造物群など13件48棟を指定	23.8.18	福島民報
・建造物13件を指定 歴史的風致、保全図る	23.8.31	福島民友
・歴史的建造物に表示プレート 指定13件に設置	23.9.2	福島民報
・歴史的風致形成建造物「大谷家住宅」など13件 白河市が指定	23.9.3	毎日新聞
・ハリストス正教会など10件 風致建造物に追加指定 白河市	23.11.15	福島民報
・歴史的建造物10件指定	23.11.16	福島民友
・小南湖を追加指定 白河市歴史的風致形成建造物	23.11.27	福島民報

評価対象年度 平成23年度

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

白河市が歴史的風致形成建造物の第1次、第2次指定を行ったことや、その修繕などに対して補助の支援が得られることが話題となって各新聞社に掲載された。  
これらの報道により、歴史的なまちなみの保全・活用に対して興味や関心が高まったと考えられる。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施にあたっての課題(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

事業の進捗状況について報道を行ってもらうために、情報提供を行うなどPRすることにより、歴史的風致の維持向上についての関心を高めていく必要がある。

状況を示す写真や資料等

平成 23 年 9 月 3 日 毎日新聞 (福島版)

白河市が指定  
歴史的風致形成建造物  
「大谷家住宅」など13件

白河市は同市桜町の紙屋醸造建造物群など13件48棟を、歴史まちづくり法に基づき「歴史的風致形成建造物」に指定した。

歴史的風致は、歴史的な街並みと、そこで営まれる生活を一体のものとして捉えた概



念。その環境を維持向上するためには保全する。同市は「歴史的風致維持向上計画」を作成し、県内で初めて国の認定を受けている。市はすでに、指定された建造物に指定プレートの設置を完了した。

指定された歴史的風致形成建造物は次の通り。

紙屋醸造建造物群(桜町)▽上の片野屋建造物群(同)▽藤屋建造物群(二番町)▽今井醤油店建造物群(天神町)▽仁平薬店建造物群(同)▽旧脇本陣柳家旅館建造物群(本町)▽茂木茶舗建

平成 23 年 11 月 27 日 福島民報 8 面 (県南)

小南湖を追加指定  
白河市歴史的風致形成建造物

白河市は二十二日、建造物として丹羽長重廟(ひょう)など白河藩の大名家墓所のある小南湖を追加指定した。指定件数は合計で二十四件となった。

歴史的風致形成建造物は市歴史まちづくり計画の重点区域内で歴史的風致の維持向上のために保全の必要性が認められる建造物を指す。

小南湖にある丹羽長重廟

造物群(同)▽大谷忠造物群(同)▽白陽酒造建造物群(年貢町)▽奈良屋呉服店建造物群(一番町)▽大谷家住宅建造物群(本町)

物群(中町)▽千駒酒造建造物群(年貢町)▽松井菜局建造物群(天神町)▽亀平商店建造物群(本町)



評価軸⑤

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	日時	掲載紙等
・小峰城跡復興考える 白河 歴史まちづくり講演会	23.12.5	福島民友
・小峰城石垣の現状を語る 白河 歴史まちづくり講演会	23.12.7	福島民報
・歴史的な街並み歩き楽しむ	23.12.3	福島民友
・白河の歴史的建造物見学	23.12.8	福島民報

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

歴史的風致の維持向上を図るための普及事業として実施した歴史まちづくり講演会や歴史的風致形成建造物に指定した蔵を公開するイベントが新聞記事で紹介され、歴史まちづくりに対する関心が高まった。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施にあたっての課題(自由記述)
<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし	事業の進捗状況について報道を行ってもらうために、情報提供を行うなどPRすることにより、歴史的風致の維持向上についての関心を高めていく必要がある。

状況を示す写真や資料等

平成 23 年 12 月 7 日 福島民報 (県南)



小峰城石垣について講演する北野氏

**小峰城石垣の現状語る**  
 白河 歴史まちづくり講演会  
 白河市の歴史まちづくり講演会は四日、白河市立図書館で開かれた。東北工業大工学部教授の高橋恒夫さんが「歴史的建造物の保全と歴史まちづくり」のテーマで講演、城下町の街並みの特徴と、蔵など市内の由緒ある建造物を紹介した。小峰城の石垣修復を担当する東北芸術工科大学の北野博司さんは「小峰城石垣の歴史的价值と復旧」の題で講演。東日本大震災で崩落した小峰城石垣の現状や崩落の構造的原因、今後の復旧の進め方などについて語った。会場には満員となる二百人以上の市民が詰め掛け、歴史のまち白河の復興の道筋について理解を深めた。

平成 23 年 12 月 8 日 (木) 福島民報 13 面 (県南版)

白河市の中心市街地の蔵を見学する参加者



白河の歴史的建造物見学

**中心市街地蔵ウオーク**  
 白河市の中心市街地に数多く点在する歴史的建造物を見学する第四回蔵ウオークがこのほど繰り広げられた。足元にある資源を生かした歴史的まちづくりを進める市とNPOしらかわ建築サポートセンターが、地元の大町、天神町、金屋町、愛宕町の各町内会の協力を得て開催した。市民ら約七十人が、今なお古い土蔵を暮らしの中に生かしている仁平商店、松井薬局、今井醤油店などを回った。佐川庄司市歴史まちづくり室長が案内した。参加者は、白河の産業発展や風致形成に大きく貢献してきた蔵への関心をさらに深めていた。

評価対象年度	平成23年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 第2回白河市歴史的風致維持向上計画協議会	
会議等の開催日時: 平成24年2月9日(木)午後1時30分～3時30分	
(コメントの概要)	
<p>■評価軸③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を実施する上で、歴史的風致維持向上支援法人であるNPOしらかわ建築サポートセンター等、地域の協力団体が主体的にリードしたほうがうまくいくものもある。2年目以降は、積極的に知恵を出しながら検討していくと歯車がよく回るのでは。</li> <li>・都市計画や景観計画、文化財の活用等、施策間の連携、調整を引き続きお願いしたい。</li> </ul> <p>○歴史的まちなみ修景事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景観形成ガイドラインのゾーニングの範囲を超えた箇所(小峰城に対する天神山からの眺望景観等)についても風致形成を図らなければならないものもある。</li> </ul> <p>○休養施設(友月山)整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的風致を巡る回遊性の向上やツーリズムガイドの取り組みと、休養施設の整備等が連携し、相乗効果が目に見える形になると市民も分かりやすい。</li> <li>・今後も休養施設の整備は予定されているのか。休養施設がないと、回遊性の向上につながらない。空き家等も活用できるのでは。</li> </ul> <p>○都市計画道路一番町大工町線(教会坂通り)整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、市内で施工する道路の舗装材は、今回と同様のものでも整備するのか。舗装材を統一する考えはあるか。</li> </ul> <p>■評価軸④文化財の保存又は活用に関する事項</p> <p>○文化財の保存及び活用の普及・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災した小峰城の石垣見学会の開催だけでなく、定期的に取り組み状況が分かるように情報発信してほしい。また、修理後の文化財や被災した石垣を間近で見れる機会があるとよい。</li> <li>・文化財情報の周知については、新規事業ではなく、既存事業の中の具体策にアイデア出していけばより効果的になるのでは。</li> </ul>	
(今後の対応方針)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年計画の中で、事業が順次完了すれば、ローリング形式で必要に応じ新規事業を計画する。</li> <li>・現在も、各商店に協力いただき、「お休み処」の看板を掲げ、自由にトイレ休憩等ができる形になっている。</li> <li>・歩行系街路は自然石を使用する方針であるが、沿線のまちづくり協議会を設立し、整備の方針、色や植栽、建物の修景等、協議を進めていきたい。</li> <li>・小峰城の石垣修復の過程が分かるように、現地見学会や講演会等を引き続き開催する方向で考えている。文化財の展示等についても、所有者に修復後の公開をお願いするとともに、資料館での展示等も今まで同様実施したい。</li> </ul>	